

新宮山彦ぐるーぷ第1993回

釈迦ヶ岳登山道(太尾登山口)山頂整備と

山頂に注意標識設置及びフジテレビの取材案内

◇実施日：2018年09月28日(金)

◇参加者：豊嶋 寛、竹中佐一(テレビ取材案内27・28日)。

梶野照雄。

計3名。

釈迦ヶ岳登山道整備と山頂に注意標識設置

釈迦ヶ岳山頂の釈迦如来立像基部の石積が、崩れていることが判り、石積に登らないように標識を作って東北遠征後に設置に行く予定にしていたが、旭口からも前鬼からも林道通行止めが続いて行けなかった。

秋分の日連休後のネットに複数の記録があり、旭口側から通行が可能であることと、登山道に倒木が多数あることが判った。

台風24号が迫ってきて、この日だけが晴れるという予報を信じて釈迦ヶ岳に向かった。



登山口に到着



上方を塞ぐ斜木



切除後

午前9時、太尾登山口に到着。平日だが9台の車が止まっている

る。雲一つない快晴で、暑くもなく寒くもなく、歩くには半袖でちょうどいい気温だ。チェーンソーとザックを背負子に括って登山開始。

階段を上ったカウンター前に折れた木が横たわっているが、またいで通れるのでそのままにした。10分ほどで倒木2本が頭上を遮っていた。切断して登山道外に排除。



根元付近で折れた木が



枝が多いので時間がかかる



切除後

その後5分ほどで枝の多い木が根元付近で折れて道を塞いでいた。切断して路外に排除するまで約15分を要した。倒木の処理をしながらなので、不動木屋の分岐に到着したのは11時20分、通常より一時間近く遅くなった。

分岐から古田の森を越えて千丈平の手前鞍部までに大きな倒木は無く、細い枝の倒木が数本あった。どの倒木も折ったり切ったりした痕跡はなく、枝先を迂回する道が笹原に出来上がっていた。台風21号から3週間強、このルートを利用する人がいかに多いか、ということがよくわかる。

12時過ぎに古田の森に到着。背負子を降ろして休憩する。ここで昼食とも思ったが、途中でお会いした浅井證善行者から

「深仙宿に異常はなく、千丈平の下に複数の倒木があり、通行を阻害している」とお聞きしたので、千丈平までの倒木処理を優先した。

千丈平までに切除した倒木は4本、大きなものは直径約40cmで、チェーンソーの歯が挟まれないように慎重に作業した。



直径約40cmの倒木



根の部分は元に戻った



釈迦ヶ岳山頂

千丈平に着いてやっと昼食、靴を脱いでゆっくり休憩した。

食後、かくし水を経由して釈迦ヶ岳へ。これまでに出会った登山者は、古田の森手前で浅井行者、千丈平でご夫婦、かくし水で深仙宿から上がってきた人一名の計4名だった。

釈迦ヶ岳山頂には誰もおらず、晴天で見通しもよく、弥山、八経ヶ岳の向こうに山上ヶ岳も確認できる。七面山の遠くに五條の町と思われる市街地がうつすらと見えるので、五條の町からも釈迦ヶ岳山頂が見えているのだと確信した。

「のぼるな！くずれる」の注意標識は4枚、6mm厚のベニヤ板に木材保護剤を塗ったものだ。

石積の南側と西側がかなり崩れていて、一部の岩は正面に置かれていた。標識は南側に3枚、西側に1枚をそれぞれステンレス

線で岩に縛り付けた。



南側の崩れ



正面に岩の一部が崩れ



「注意標識」



「注意標識」を西側に一枚、南側に3枚設置



下山時も切除



ネットの投稿では石積の上に登って釈迦像と一緒に写した写真が多数見受けられる。

写真には顔も写っていて、投稿者も特定できるので、自慢しい気持ちもわかるが、ネットの投稿には十分注意しなければなら

ない。

山頂の作業を終え下山にかかる。かくし水で顔を洗って、空になった魔法瓶に水を満たした。途中、登りで切り残した倒木を切除。あまり軽くない背負子を背に古田の森に到着。持ってきたサイダーとパン2個を食べて休憩した。

午後4時を過ぎていたので、日没に備えて懐中電灯をザックから出してポケットへ入れ、再び歩き出した。不動木屋分岐までの細い枝の倒木は鋸で切除、チェーンソーは2回使用した。

外した刃のカバーが見当たらず、探し回って笹の中に見つけたときはほっとした。使った道具は分散せずに一か所にまとめておくべきだと思った。



刃が挟まれないよう注意してチェーンソーで倒木切除

午後6時少し前に登山口に到着。チェーンソーを降ろして、折れて横たわっている木を切除した。

薄暗くなった登山口には車が3台。一台はタクシーで。大きなスーツケース2個を社外に置いて運転手が車外で立っていた。

タクシーは珍しいので、運転手に声をかけた。榎原から来た、撮影しているとのこと。そういえば、古田の森の手前で上空にド

ローンが飛んでいるのが見えた。音は聞こえなかったので200m位上空を飛んでいたようだった。



細い枝は鋸で切除



カウンター前の倒木



登山口に帰着

靴を履き替えていると、登山道から声が聞こえて、タクシーの乗客が帰ってきたようだ。もう暗くなって、はっきりとはわからなかったが、若い人が4名ほど、女性もいたようだ。山歩きになれている風ではなかった。他に2名、オールドファッションの人がいた。

着替えを済ませて荷物を積み込む前にチェーンソーのエンジンをかけてみた。スムーズに始動したので一安心。すると、向こう側から「あんたかいな、切ってくれたん」と声がする。暗くてわからなかったが、近づいて豊嶋さんと判った。

フジテレビの取材協力だった。前鬼から山川さんが案内するはずだったが、林道の通行止めで旭口からの登山になり、豊嶋さんに声がかかったらしい。27日にも下見山行をしたらしいので2日連続でお疲れ様でした。豊嶋さんに「助かったわ、おかげで15分は早く降りられた」と言われて、一挙に疲れが吹っ飛んだ。タクシー、豊嶋車を見送り、真っ暗の中を最後に出発したが、

安全運転の豊嶋車を追い越し、超安全運転のタクシーにも道を譲られて先頭で林道を下り降りた。

行動タイム

太尾登山口09:10→11:20不動木屋分岐→12:05古田の森→13:36千丈平(昼食)→14:04かくし水→14:20奥駈道分岐→14:35釈迦ヶ岳14:55→15:08奥駈道分岐→15:25千丈平→16:14古田の森→17:13不動木屋分岐→18:00太尾登山口。

(記：梶野)

フジテレビの取材案内

かねてより取材協力の依頼があったフジテレビ「世界の何だコレ?ミステリー、衛星写真で見つけた謎エリアを徹底調査」について深仙宿が対象となった。

当初、8/30下見、8/31本番で、東北遠征登山直後であり山川・中村さんで対応同行の予定も、台風による前鬼林道が通行不可となったことから延期になったが、9月下旬再び連絡があつて、タレント小島よしおのスケジュールの関係上9/27下見。9/28本番で案内頂きたいとの電話連絡があつた。

直ぐのことであり山川さんも都合がつかず。急遽、豊嶋・竹中のお二人をお願いしたところ、快く引受けて頂いた。

コースも前鬼林道が未開通の為、十津川旭口からのコースに変更することだった。

27日の下見当日は、午前7時に旭口で合流。この日は、ダイレクター根来昭人氏のみ案内で、千丈平→釈迦ヶ岳山頂→深仙宿→捲き道のコースでの案内。

根来氏からは、ミステリーと言う番組の性格上、小島よしおには、釈迦迄何時間かかるとか、この先何があるなど一切予備知識を与える事がない様などの注文があつたとのこと。

28日の本番は、素晴らしい天気恵まれた。本日も前日と同

コースをとる。とにかく「しゃべるな!」とお達しがあつたので、見ているだけに終始したようだ。

ドローンを飛ばしたり、夕日を撮るなどで深仙宿出発は16時をまわっていた。尚、小島よしおは、明日仙台で仕事があるらしく先行下山された。

途中、梶野君が単独で倒木処理されていた。登山口に着いた時には、どっふり日も落ちていた。

「記：沖崎(同行案内者より聴取)」